

道徳科の充実に向けて

平成31年3月 北海道教育庁オホーツク教育局義務教育指導班

「今後の道徳教育の改善・充実方策について」（報告）（H25.12.26 道徳教育の充実に関する懇談会）及び「道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」（H28.7.22 考える道徳への転換に向けたWG）において、道徳の時間の授業と評価の課題として次の点が指摘されました。

<道徳の時間の授業の質的課題>

- ・教員をはじめとする教育関係者にもその理念が十分に理解されておらず、**効果的な指導方法も共有されていない。**
- ・地域間、学校間、教師間の差が大きく、**道徳教育に関する理解や道徳の時間の指導方法のばらつきが大きい。**
- ・指導方法が、**主題やねらいの設定が不十分な、単なる生活体験の話合いの指導や読み物教材の登場人物の心情理解のみに終始する指導、望ましいと分かっていることを言わせたり、書かせたりすることに終始する指導**などの型にはまったものになりがちである。
- ・学年が上がるにつれて、道徳の時間に関する児童生徒の受け止めがよくない状況にある。

<道徳の時間の評価における課題>

- ・本来、道徳の時間についても、児童生徒の実態を把握し、それを指導に生かして授業改善を行うことが求められているところであるが、このような評価の仕組みの中で、**道徳の時間における児童生徒に関する評価についての実践や研究が各学校等において組織的・計画的に進められてこなかった。**

オホーツク管内小・中学校においても、「道徳科の授業の効果的な指導方法が分からない」、「道徳科の評価の仕方が分からない」といった声が多く聞かれることから、全国的な傾向同様、道徳科の授業づくりや道徳科の評価の在り方等について、課題が見られます。

また、オホーツク管内の特徴の1つとして複式学級を有する学校数が多い（H30年度現在【小学校】31校〔複式学級の学校数の割合：37.8%〕）という現状から、複式学級における道徳科の授業展開の仕方に課題を抱えている先生方が多いということも挙げられます。

こうした現状を踏まえ、オホーツク教育局義務教育指導班では、児童生徒の道徳性を確実に養うための道徳科の授業（複式授業を含む）の展開及び道徳科における評価の在り方について、先生方に共通理解を図ってもらうことを目的として、本資料を作成しました。

先生方の今後の道徳教育の推進と充実を図るためにも、是非、本資料を御活用ください。

1 道徳科の授業づくり (P2～P4)

- ◎ 明確な指導観をもって授業を構築することが大切であることから、指導観（価値観、児童生徒観、教材観）の記述のポイント、1単位時間の一般的な授業過程に基づいた本時の展開のポイントについて解説しています。

2 道徳科の評価 (P5)

- ◎ 道徳科の評価の視点、評価の記述のポイント、評価のための工夫点等について解説しています。

3 複式学級における道徳科の授業展開 (P6～P7)

- ◎ 学年別指導における道徳科の学習指導について、「わたり」「ずらし」をどのように工夫すればよいか、少人数による話合い活動のポイント等について解説しています。

4 道徳科授業の参観チェックシート (P8)

- ◎ 自身の授業の改善につながるチェックシートを記載しています。

1 道徳科の授業づくり

明確な指導観に基づく授業の創造

答えが1つではない道徳的な問題を、一人一人の児童生徒が自分ごとの問題として捉え、向き合うことができるようにするために、本時のねらい、児童生徒のゴールの姿を確実に設定する等、明確な指導観をもって授業を展開していく必要があります。

- 1 ねらいとする道徳的価値（内容項目）について、学習指導要領に基づき、明確な考えをもつこと ⇒ 『価値観』
- 2 授業者の明確な価値観に基づくこれまでの指導と児童生徒の学び、よさや課題を明確にし、本時の方向性を示すこと ⇒ 『児童生徒観』
- 3 授業者の明確な価値観、本時の方向性を基に、教材の活用の仕方を明らかにすること ⇒ 『教材観』

1 主題名

柔軟な心 【B9 相互理解、寛容】

道徳科の内容項目、ねらいとする道徳的価値の様相を端的に表したものを記述します。原則として年間指導計画における主題名を記述します。

2 教材名

言葉の向こうに（光村図書 文部科学省編集委員会 改作）

教科用図書等の中から、指導で用いている教材の題名を記述します。

3 主題設定の理由【指導観】

(1) ねらいとする道徳的価値について【価値観】

人間は、自分なりの角度や視点から物事を見ることが多いため、他者との話し合いや、協働して一つのことに取り組む際、相互理解が図れず、自分の考えや意見を他者に伝えることに困難が生じたり、意見や思いを伝えられなかったりする場合がある。

よって、人にはそれぞれ自分のものの見方や考え方が個性があるため、互いが相手の存在の独自性を認め、相手の考えや立場を尊重し、素直に受け入れる謙虚さをもって他に学び、自己を高めることが求められる。

中学1年生の指導に当たっては、自分の考えや立場に固執したり、すべての考えを吟味することなく受け入れたりせず、開かれた心で他者に接していくことが大切であることを理解させるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、広い視野に立っているいろいろなもの見方や考え方があることを理解しようとする態度を育てていきたい。

中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳 (1) 内容項目の概要【P42】上・下段の『自分なりの角度や視点から物事を見る事が多い。(中略)自分の考えや意見を他者に伝えることに困難が生じたり、意見や思いを伝えられなかったりすることもある。』の部分を基に記述します。

中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳 (1) 内容項目の概要【P42】下段の『よりよい人間関係を築くためには、(中略)他者の意見を認めて素直に取り入れる謙虚さをもって他に学び、自己を高めることが求められる。』の部分を基に記述します。

中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳 (2) 指導の要点【P43】中段以降の『指導に当たっては、まず、個性とは(中略)互いの個性や立場を尊重し、広い視野に立っているいろいろなもの見方や考え方があることを理解しようとする態度を育てることが大切である。』の部分を基に記述します。

「価値観」を作成するポイント

・学習指導要領を基に、ねらいとする道徳的価値の意味や意義、指導内容についての教師の捉え方を記述します。

(2) 生徒の実態【生徒観】

各教科及び特別活動等の授業においては、自分の考えを整理し、ワークシートやノートに積極的にまとめる様子が伺えるが、グループ内や全体での発表場面では失敗を恐れ、自分の考えや意見を伝えることができない生徒が多い。

また、本時の育成を目指す道徳性に関するアンケート結果(表1)から、ある特定の生徒の考えや意見に流されてしまい、自分と他者の考えの違いを比べたり、自分自身の考えをもっているのに、遠慮して全体の場で伝えられない生徒が多いことが明らかとなった。

表1 (回答生徒数:30名)

	「はい」
相手の意見に流されてしまう	13人
自分の考えを全体の場で発表するのは苦手である	17人

育成を目指す道徳性（内容項目）に関する各教科等の学習活動の様子を示します。

育成を目指す道徳性（内容項目）に関するアンケートを実施するなど、客観的なデータ等に基づく結果分析から道徳性に係る児童生徒の課題等を記入していくことも大切です。

このことから、自らの意志に背いて他に同調するのではなく自分の意見や考えを伝えること、そして他者の多様な考えを聞く耳をもたせ、いろいろなものの見方や考え方があることを理解しようとする態度を育てる必要がある。

児童生徒の実態を踏まえ、本時において、児童生徒に考えさせること、授業で必要となる指導内容を記述します。

「児童生徒観」を作成するポイント

- ・児童生徒観では、ねらいとする道徳的価値に関する児童生徒のこれまでの学習状況や教師の願いを記述します。
- ・児童生徒の実態を踏まえ、本時では、今まで行われてきた道徳教育を補うのか（補充）、深めるのか（深化）、発展（統合）させるのかを記述します。

(3) 教材について【教材観】

本学習においては、「閉じた個」という自己中心的で狭い視野で物事を見つめたり、人に接したりするのではなく、「開かれた個」が大切であることを深く考える機会としたい。本時で用いる教材「言葉の向こうに」は、主人公が不用意に行ったネットへの書き込みにより、思わぬトラブルに巻き込まれていく様子を表したものであり、生徒にとって身近に感じることができる教材である。

本時では、「『あなたが書いた言葉の向こうにいる人々の顔を思い浮かべてみて』という言葉に、加奈子はどんな気持ちになったのだろうか」という中心発問をとおして、柔軟なもの見方や考え方が大切であること、コミュニケーションの正しい在り方等について考えさせる。また、情報モラルの「光と影」について考えさせるとともに、いろいろなものの見方や考え方から正しい判断で行動することの大切さについて考えさせたい。このことから、自らの意志に背いて他に同調するのではなく自分の意見や考えを伝えること、そして他者の多様な考えを聞く耳をもたせ、いろいろなものの見方や考え方があることを理解しようとする態度を育てる必要がある。

ねらいとする道徳的価値を踏まえ、本教材の選択理由、使用する教材の概要を記述します。

本教材をどのように活用していくのかを明確にするために、発問の意図を記入します。また使用する教材の内容によっては、関連する現代的な課題等の指導内容について記述する必要があります。

「教材観」を作成するポイント

使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法などを記述します。発問等をとおして特に考えを深めさせたいことや、指導上の留意点などを明確に記述します。

更なる充実に向けて

◎明確な指導観をもつことにより、児童生徒の道徳性を養うことにつながる質の高い授業を実現するとともに、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する視点を明らかにすることが大切です。



教師の指導の意図や構想を適切に表現した1単位時間の学習過程

児童生徒が自分自身についてより深く見つめたり、自己（人間として）の生き方について深く考えたりすることができるように、次のような学習過程を大切にして1単位時間の授業を構成する必要があります。

1 単位時間の授業の基本的な学習過程

導入（価値への方向付け）

- ・本時の主題に関わる問題意識をもたせたり、興味・関心をもたせたりします。

展開（価値の追究・把握・内面化）

- ・児童生徒一人一人の感じ方や考え方を生かしたり、話し合い活動をとおして多面的・多角的に考えさせたりするなど、ねらいとする道徳的価値の理解と自覚を深めさせます。
- ・中心発問等をとおして、児童生徒が自分との関わりで道徳的価値を理解させ、自己の生き方について考えを深めさせます。

終末（意欲化）

- ・本時の学習をとおして考えたことや分かったことを確かめたり、今後の自分への肯定感（実践意欲）を高めさせたりします。

道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、人間（自己）の生き方についての学習を進める学習をとおして、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度のうち、どれを育てるのかを明記します。

4 本時の学習

(1) 本時のねらい

他人との関わりにおいて、他者の考えや立場を尊重し、広い視野をもって調和して生活していかなければならないことを理解し、柔軟なものの方見方・考え方で、他人と接する態度を養う。

(2) 本時の展開

【◎:中心発問 ○:基本発問 △:補助発問 □:生徒の反応 ・:指導上の留意点】

	主な学習活動	教師の関わり
導入(価値の方向付け)	<p>1. 普段、人と接する(コミュニケーションをとる)ときに気を付けていることについて考える。</p> <p>・優しく接する。 ・相手の事を考えて。 など ・特に意識していなかった。</p>	<p>1. 人とのコミュニケーションの取り方について考えさせる。 ○「あなたが普段、人と接する(コミュニケーションをとる)ときに気を付けていることは何ですか。」 ・今までの自分の行動について想起させる。</p>
展開(価値の追究、把握、内面化)	<p>2. 教材の範読を聞き、加奈子のとった行動について考える。</p> <p>・最初に書き込みをした人が悪いので、加奈子のとった行動は、当然である。 ・相手を諭すような書き込みをすればよかった。 ・無視する必要があった。 など</p>	<p>2. 教材「言葉の向こうに(前半)」を配付、範読して加奈子のとった行動について考えさせる。 ○「ファンサイトのA選手の誹謗中傷の書き込みに対し、加奈子がとった行動(反論の書き込み)についてどう思いますか。」 △「加奈子のとった行動は正しいですか。」 ・加奈子の行動に対し自我関与させる。</p>
	<p>3. 加奈子自身のサイトのやりとりを見ていた人々は、どういう気持ちであり、それを知った加奈子自身の心の変化について考える。</p> <p>・悲しい顔～加奈子自身が最初の書き込みの人と同化してしまったから。 ・無表情～客観的に、冷めた目で見ている。 ・怒った顔～ファンサイト内がさらにひどくなったから。</p>	<p>3. 加奈子の気持ち(心)の変化について考えさせる。 ○「加奈子の書き込みを見た人たちは、どんな顔(表情)をして、それを見ていたと思うだろうか。実際にその表情を絵で表してみよう。」 △「その顔(表情)を見て、加奈子はどう感じたでしょう。」 ・グループで交流させる。</p>
	<p>4. 今回のサイトの一連のやりとりで、加奈子が学んだことについて考える。</p> <p>・人とコミュニケーションをとることは、難しいということ ・周りの人たちのことを考える必要があること ・感情に流されず、冷静に考えて判断すること</p>	<p>4. サイトを通して、加奈子はどんなことを学んだのかを考えさせる。 ◎『「あなたが書いた言葉の向こうにいる人々の顔を思い浮かべてみて。』という言葉を見て、加奈子はどんな気持ちになったのだろうか。」 △「あなたにとって人とコミュニケーションをとるために大切なことは何であると思いますか。」 ・考えた内容をグループで交流させる。</p>
終末(意欲化)	<p>5. 本時で学んだこと、考えたことをワークシートに記入する。</p>	<p>5. 本時で、学んだこと、考えたことをこれまでの自分の生き方や考え方と結び付け、ワークシートに記入するよう指示する。</p>
	<p>6. 教師の話を聞く。</p> <p>・『だまし絵』から、人それぞれ異なるものの見方や考え方があり、そうした相手のことを尊重しながら人と接することが大切である事を実感する。 ・発達する情報化社会の中で、どのように人とコミュニケーションをとりながら生活していくべきかを考える。</p>	<p>6. 話しをする。</p> <p>・『だまし絵』の提示、私たちの道徳(P73)の内容について全体で確認することで、見る角度によって見え方が違うことを実感させる。</p> <p>・情報化社会における「光」と「影」について話しをし、情報化社会を生き抜くために必要なことについて考えさせる。</p> <p>情報モラルと現代的な課題についての理解を深める</p>

自分自身の生活を振り返らせるなど、道徳的価値に対する意欲化を図ります。

読み物教材の内容を理解させるとともに、登場人物の考えや行動等について考えさせます。

登場人物の心情の変化等について捉えさせ、ねらいとする道徳的価値に関わる思いや課題を考えさせます。

中心発問をとおして、ねらいとする道徳的価値を多面的・多角的に考えるとともに、自分との関わりで道徳的価値を捉えます。

ねらいとする道徳的価値に対する思いや考えをまとめます。

話し等をとおして、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認して、今後の発展につなげます。

更なる充実に向けて

◎本教材では、登場人物の気持ちを考えさせる発問から内面化を図る展開となっていますが、一般的には展開の後半で、読み物教材から離れて自己を深く見つめ直す時間を設定します。



2 道徳科の評価

道徳科の評価

児童・生徒の**学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握**し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。
(小・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 平成29年7月 文部科学省)

道徳科において養うべき道徳性は、児童・生徒の人格全体に関わるものであり、数値などによって不用意に評価してはならないことを特に明記しています。したがって、教師はこうした点を踏まえ、それぞれの授業における指導のねらいとの関わりにおいて、児童・生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を様々な方法で捉えて、個々の児童・生徒の成長を促すとともに、教師自らの指導を評価し、改善に努めることが大切となります。

道徳科の評価に当たって

◎道徳科の評価に当たっては、学習活動において、次のような視点を重視することが重要となります。

- ① **児童生徒が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか**
(例) ・道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしているか
・自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしているか
・複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしているか
- ② **道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか**
(例) ・読み物教材の登場人物を自分と置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしているか
・現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直しているか
・道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めているか
・道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしているか

道徳科の評価の記述について

【記述に入れるとよいと思われる項目】

- ① **どのような学習をしたか**
- ② **どのような児童・生徒の姿がみられたか（発言や記述等）**
- ③ **目標に向けてどのような点で評価できるか**

～記述例～

「①他者の意見に多く触れ、自分の考えを深める授業を重ねる中で、②自分と違う意見や立場を理解し、③相手を尊重することの大切さを深く考えていくことができるようになってきました。」

評価のための具体的な工夫について

- 児童生徒の学習の過程や成果などの記録を計画的にファイルへ蓄積
- 児童生徒が道徳性を養っていく過程での児童生徒自身のエピソードの累積
- 作文やレポート、スピーチやプレゼンテーション等
- 児童生徒が行う自己評価、相互評価
- 学級担任が普段の授業とは違う角度から児童生徒の新たな一面を発見するための副担任等との協力的な授業

展開後半	<p>○「サム」の努力の姿勢を理解してほしい、「サーカスのことを誰よりも深く考えていることを理解してほしい」、「サム自身にも協力することの大切さを分かってほしい」等</p> <p>☆仲間に責められているサムに声を上げたビエロは、どのような気持ちで仲間に語り掛けましたか。</p>	同時 間接 指導	<p>○実際に親切にできた体験談や親切にしようと思ってもできなかったことを、その時の気持ちも含めてお互いに発表する。</p> <p>◇人に親切にできたことやできなかったこととして、どのようなことがあるか。その時の思いも含めて話合おう。</p>	展開後半
	<p>・学級担任は、<u>学習リーダーを中心とした話し合い活動を行うよう指示し、児童がねらいとする道徳的価値を多面的・多角的に捉えているかどうかを見取ります。</u></p>		<p>・学級担任は、<u>学習リーダーを中心に、互いに自分の体験談を話合おうように指示し、自己の弱さを見つめさせ、ねらいとする道徳的価値の大切さに気付かせます。</u></p>	
展開後半	<p>○「相手の考えを聞き、認めて受け入れること」、「常に相手のことを考えて行動すること」、「自己中心的な言動は慎むこと」等</p> <p>◇広い心をもって、相手の考えを認めたり、過ちなどを許したりするために大切なことは何ですか。</p>	直接 指導	<p>○「人に親切にするためには、相手の立場を考慮することが大切である」等</p> <p>◇人に親切にするために、どういうことを心掛けておく必要があるかを話合おう。</p>	展開後半
	<p>・学級担任は、ねらいとする道徳的価値を自分ごととして考え、自己理解を深めることができるように指導します。</p>		<p>・学級担任は、<u>学習リーダーを中心に、話し合い活動を行うよう指示し、ねらいとする道徳的価値の大切さについての理解を深めさせます。</u></p>	
終末	<p>○学習を振り返り、学んだことを道徳ノート等に記入する。</p> <p>◎本時で学んだことを道徳ノート等に記入するよう指示する。</p>	間接 指導	<p>○本当の親切の場面等について考えたり、説話等を聞いたりする。</p> <p>◎本時のまとめ及び説話等をする。【「本当の親切」について】</p>	終末
	<p>・学級担任は、本時で学んだことを道徳ノート等にまとめるよう指示します。</p>		<p>・学級担任は、<u>説話等をとおして、児童がねらいとする道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり深めたりして、今後の自分自身の生き方へとつなげられるようにしていきます。</u></p>	
終末	<p>○謙虚な心、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重することについて考える。</p> <p>◎本時のまとめ及び説話等をする。</p>	直接 指導	<p>○学習を振り返り、学んだことを道徳ノート等に記入する。</p> <p>◎本時で学んだことを道徳ノート等に記入するよう指示する。</p>	終末
	<p>・学級担任は、<u>説話等をとおして、ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり温めたりして、今後の自分自身の生き方へとつなげられるようにしていきます。</u></p>		<p>・学級担任は、本時で学んだことを道徳ノート等にまとめるよう指示します。</p>	

ポイント4
児童生徒同士で話し合う、学び合う活動を実現するために、各教科等でも対話的な学びができるように指導しておく必要があります。

ポイント5
同時間接指導を位置付け、児童からどのような考えが出されたかを細かく見取る時間を設定します。

ポイント6
終末における教師の説話は、ずらしを行う等、自己（人間）の生き方について考えさせる工夫を必要があります。

更なる充実に向けて

- ◎間接指導の際に、学級担任は児童生徒が考えたり発表したりした内容を把握するために、ワークシートや道徳ノート等に確実に記録させておきます。
- ◎2つの学年で実施する内容項目を揃えることで、場合によっては導入や終末場面において、一斉指導が可能となります。ただし、一斉指導を行う際は、各学年の発達の段階を踏まえ、ねらいとする道徳的価値の内容を十分に理解させることが大切です。
- ◎学年により、児童数が1名の場合は、話し合い活動が成立しないため、学級担任は事前に関問に対する多様な意見例を提示するなど、対話的な学びが成立するよう工夫することが大切です。
- ◎複式学級（少人数学級）は、教師と児童生徒の関係、児童生徒同士の関係が密接で、相互の信頼関係を形成しやすいという利点があります。その利点を生かすためにも、道徳科の授業においては、児童生徒が安心して自分の思いや考えを相手に伝えたり、道徳的な問題について本音で語り合ったりする場を確実に位置付け、自己（人間）の生き方についての考えを深めさせる授業を行うことが大切です。



4 道徳科授業の参観チェックシート

道徳科授業の参観チェックシート

- ① 主題は、学習指導要領の内容や学級の実態に応じていますか？
- ② 用意した教材は、児童生徒が共感するものになっていますか？
- ③ ねらいを達成するための板書計画を作成していますか？
- ④ 導入の場面において、写真やイラスト、映像資料など、児童生徒の興味・関心を高める工夫をしていますか？
- ⑤ 教材を分析し、中心的な発問が吟味されたものになっていますか？
- ⑥ 登場人物の心情ばかりを追うのではなく、児童生徒自身の考えを問う発問になっていますか？
- ⑦ 児童生徒の主体的な活動を促す言語活動（考えを書く活動、話し合いなど）を取り入れていますか？
- ⑧ 道徳的価値について、児童生徒が自分の考えを深める場面を設定していますか？
- ⑨ 終末の場面において、児童生徒の道徳的な実践につながるよう説話等を工夫していますか？

※参考 「道徳教育の改善・充実に向けた指導資料」（北海道教育庁義務教育課Webページ）